

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
金子祥之			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
矢野 晋吾		青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	AYGa-140702-0	6人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

本調査実習においては、講義全体の関心を教員が設定したあと、学生たちが自ら研究テーマを選定した。質的調査を行なう際に必要な質問項目の設定も教員がサポートし学生たちが行なった。そのうえで、グループインタビューを複数回実施した。報告書の執筆も各学生が1章ずつ担当している。調査関心の設定、調査のデザイン、調査の実施、そして調査データの編集までの一連の過程を学生たちが主体的に行ない、自ら調査を企画できる技能を身につけた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

都市化地域における生活変容の実態調査／環境社会学・環境民俗学・地域社会学

2. 調査の内容／概要：

本報告書の目的は、急激な都市化を受けた地域社会がどのような手を打つことで生活条件の変化に応じてきたのかを明らかにすることであった。本調査実習では、とりわけ生活文化の変容に注目しながら記述を試みた。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

千葉県市川市1丁目2丁目自治会（旧上妙典）を対象とした。都市化が急速に進んだ千葉県西部地域にあって、そのなかでもとくに劇的な変容を遂げたとされる行徳地域内に位置しており、本調査の関心から最適であると判断したため。

4. 主な調査項目：

自治会レベルの変容：地域自治組織の変化、地域の氏子組織の変化、相互扶助関係の変化、環境利用の変化

個人レベルでの変容：年中行事・人生儀礼の変化、食生活・住生活の変化

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

自治会館を利用させていただき、グループインタビューを行なった。この他、自治会主催・関連の行事では、参与観察を行なった。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2014年9月15日から17日にかけて、合宿形式の本調査を実施した。このほか追加調査を企画し、のべ7日間の調査を行なった。調査地は千葉県市川市妙典地域であり、調査員数は協力者を含め8名である。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

データ量としては、短い期間の調査であったにもかかわらず、十分な量のデータを得ることができた。述べ30名の方々にご協力いただき、さまざまな経験談をお話しいただいた。他方、データの質は、もう少し精度を上げる必要があったといえる。刊行前に地元の方々のチェックを依頼したが、いくつか修正が必要な箇所がでてきたことも事実である。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

本調査事例地、および行徳地域では、民俗誌などの伝統的な生活文化を記した書籍や、その後の変容過程を調査した先行事例が全くない状態であった。そのため、報告書全体としては、データの解釈や分析よりも実態記述にとくに力を割いた。いくつかの項目については、環境社会学における環境史分析を行なっている。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

本調査から明らかになった事実として注目されるのは、地域変容のありかたである。1960年以前は半農半漁の農村であったこと。そこから急速な都市化が進み、それにとまって2000年ころまでにかけて、生活変容が生じた。それはこれまでの伝統的な生活文化を簡略化するというものであった。ところがここ10年程、地域の生活文化の見直しがすすんでいることが明らかになった。これは地域運営をしてゆくうえで、生活文化がソフトな資源として活用されていることが確認された。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2015年3月末に青山学院大学より、報告書を刊行した。青山学院大学総合文化政策学部、社会調査実習「地域社会に学ぶ生活環境とその変化」クラスの2014年度調査実習報告書であり、『地域社会と寺院が織りなす生活文化—市川市上妙典の生活変遷—』というタイトルである。本報告書は三部から構成され、第一部に写真編〈目で見る地域生活〉を、第二部には本報告書の中心となる聞き書き編〈生活経験を尋ねる〉を配置した。そのうえで、調査で確認された歴史資料を活用し、第三部には地域と寺院の歴史〈歴史史料を交えて〉を設けた。これら三部は合計で14章、204頁から構成されており、充実した内容の報告書を作成することができた。